

# 日本テレマン協会

2011 年度 社会的活動報告

～社会と対話する演奏会を目指して…～

The marriage of social and cultural application



TELEMANN INSTITUTE JAPAN



近畿 1400 万人の命を支える琵琶湖の水。この冊子は水質浄化するために刈り取られた「西の湖」の葦(よし)を使用しています。この冊子一冊で琵琶湖の水、約 400 リットルが浄化されたこととなります。



# ～社会と対話する演奏会を目指して…～

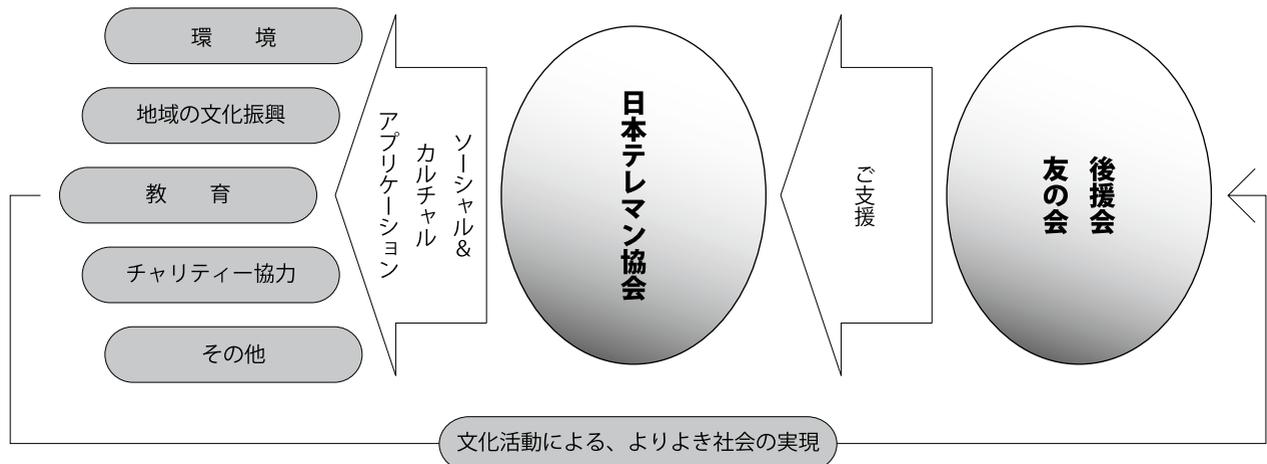
## 日本テレマン協会のめざすソーシャル&カルチャル・アプリケーション

日本テレマン協会は常に最新の試みと、新しい価値観の創造をめざす文化活動を続けてきました。財界サロンなどを舞台にした室内楽、教会聖堂での宗教音楽の演奏会にはじまり、ベートーヴェンのテンポ指示を忠実に守った「100人の第九」（世界初の試み）、バロック楽器やクラシカル楽器による演奏、数々の本邦初演、そしてベッドタウンでのコンサート、字幕・トーク付きコンサート、講談とのコラボレーション…など、その試みのバリエーションの広さは他の追随を許していません。またそのほとんどが日本初の試みであり、後に他の団体の活動に大きな影響を与えてきたことは、皆さんも良くご存じのことと思われるます。

こういった活動の根底には「より幅広い聴衆に音楽の楽しさを知ってもらいたい」という思いがあり、その思いは創設以来49年以上たった現在でも受け継がれ、さらに進化しつつあるといえましょう。特に協会は今、文化の団体が「社会に対して出来ること」、「国の繁栄に貢献出来ること」…演奏会を通して聴衆だけではなく、広くその市民、そして社会そのものどうすれば対話出来るのかを追求しようと考えております。しかしそれは一方で「営業」という視点から離れた場合も少なくはありません。そういった研究と実践を重ね活動を続けていけるのは、我々の活動に対し深く理解して下さる支援団体があるからに他なりません。

そこで今年度も冊子の形で、ご支援下さった皆様に我々の社会的な活動＝「ソーシャル&カルチャル・アプリケーション」についてご報告させて頂くことに致しました。この冊子が皆様により一層のご理解を深め、末永いご支援を頂ける「パスポート」となることを願ってやみません。

日本テレマン協会  
日本テレマン協会後援会



## ◎ 2011年度における協会の活動を支えてくださった皆様

### ・日本テレマン協会後援会

会 長	野村 明雄	(大阪ガス株式会社 相談役)
副会長	浦上 敏臣	(住友生命保険株式会社 相談役)
	脇坂 聡史	(朝日放送株式会社 代表取締役社長)
理 事	鍛冶舎 巧	(パナソニック株式会社 常務役員)
	原 真一	(コーナン建設株式会社 代表取締役社長)
	藤田 隆	(大阪音楽大学 教授)
	宮島 登美子	(TMS代表)
	小野 敏夫	(NPO法人クラシック音楽興隆会 理事長)
	砂野 耕一	(川崎重工株式会社 社友)
	室町 鐘緒	(株式会社三菱東京UFJ銀行 名誉顧問)
	山口 昌紀	(近畿日本鉄道株式会社 取締役会長)
	時政 幸雄	(関西電力株式会社 執行役員)
	井上 礼之	(ダイキン工業株式会社 取締役会長兼CEO)
	森川 敏雄	(株式会社三井住友銀行 特別顧問)
	佐野 吉彦	(安井建築設計事務所 代表取締役社長)
	羅 辰雄	(株式会社蓬萊 代表取締役社長)
	入谷 泰生	(日本クルーズ客船株式会社 代表取締役社長)
	鳥井 信吾	(サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長)
	吉田 有宏	(千寿製薬株式会社 代表取締役社長)
	杉浦 正	(共和コーポレーション株式会社 代表取締役)
専務理事	中原 博人	(日本テレマン協会)
顧 問	井戸 敏三	(兵庫県知事)
	荒井 正吾	(奈良県知事)
	矢田 立郎	(神戸市長)
	アレクサンダー・オルブリッヒ	(ドイツ総領事)
	マーク・ウェベルズ	(アメリカ副領事)
	クリス・スチュワート	(イギリス総領事)
	フィリップ・ジャンヴィエ・カミヤマ	(フランス総領事)
	マルガリータ・ボット	(オランダ総領事)
	プロホロブ・イワン	(ロシア総領事)
	ダビデ・ジリオ	(イタリア総領事)
	フレデリック・ヴェレイデン	(ベルギー大使館公使参事官)
	李 賢主	(駐大阪大韓民国総領事)
	陳 舜臣	(作家)
	多川 俊映	(興福寺貫首)
	鶴澤 寛治	(人間国宝 三味線奏者)
	ロニー・アレキサンダー	(神戸大学大学院教授)
	池長 潤	(カトリック大阪教区大司教)
	千 宗守	(武者小路千家 家元)
監 事	稲畑 勝雄	(稲畑産業 取締役 相談役)
	陳 英智	(三洋実業)
後援会事務局長代行	木村 正秀	(日本テレマン協会)

## 法人会員

サントリーホールディングス(株)	日本生命保険(相)	ムジカティ
住友生命保険相互会社	(株)損害保険ジャパン	矢崎総業(株)大阪支店
朝日放送(株)	情報技術開発(株)	千寿製薬(株)
パナソニック(株)	東京海上日動火災保険(株)	三幸メリヤス(株)
ダイキン工業(株)	(学)からたち幼稚園	三菱電機(株)関西支社
(株)三菱東京UFJ銀行	日本郵船(株)	(医)中野クリニック
(株)三井住友銀行	新コスモス電機(株)	(株)カネカ
ロックペイント(株)	読売テレビ放送(株)	(有)神戸楽譜
(医)友仁会浅井整形外科	愛知時計電機(株)大阪支社	JFEスチール(株)
関西電力(株)	(株)博報堂関西支社	桜宮ゴルフクラブ(株)
大阪ガス(株)	(株)IHI関西支社	阪急電鉄(株)
(株)竹中工務店	(株)大広	京阪電気鉄道(株)
日本クルーズ客船(株)	UCC上島珈琲(株)	江崎グリコ(株)
稲畑産業(株)	中井エンジニアリング(株)	(株)共和コーポレーション
(株)大林組	関西テレビ放送(株)	(株)安井建築設計事務所
(株)武田薬品工業	(株)ロイヤルホテル	(株)アークエース
近畿日本鉄道(株)	今津建設(株)	山名酒造(株)
(名)丹陽商会	大阪ターミナルビル(株)	(株)阪神住建
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	JFEエンジニアリング(株)	フルライン(株)
コーナン建設(株)	(株)エンボウ	
(株)大丸松坂屋百貨店	(株)きんでん	

## 東京法人会員

エフエックスコーポレーション(株)	大阪ガス(株)東京支社	東邦ガス(株)
東京ガス(株)	西部ガス(株)東京事務所	

## 体会

(株)りそな銀行	(株)藤田商会	
----------	---------	--

## 個人会員

岡本 武雄	松本 好史	里見 悦子
小西 信一郎	角南 忠昭	直田 春夫
北山 靖子	田中 久善	大西 國忠
塩田 邦博	延 秀恵	山本 三千代
阿部 牧郎	延 敏恵	石村 孝夫
藤田 直照	平田 キヨ	中村 祥大
川岸 弘賢	浜辺 正昭	重森 哲二
小島 百合子	大西 淑子	堀 則明
小川 寛	越田 重雄	山田 信吾
黒川 悦子	仲窪 菜穂子	松倉 孝夫
高 仁宝	竹澤 代資一	松倉 英子
北浦 告三	三好 具子	中西 守
浅沼 健一	安達 政恭	永重 史郎
廣川 信一	吉田 好道	三木 邦夫
橋本 公宏	矢野 勝之	野村 明雄
羅 辰雄	米沢 康	長濱 一郎
南 茂夫	杉浦 正	吉田 朋代
西川 賢	中川 淳一	信楽 義彦
小林 誠	上田 讓	薄井 一美
松村 達	藤田 興二	浜野 りさ
東條 良賢	岩田 由孝	有賀 熙雄
高田 満國	和久 公子	黒田 千之
高橋 香	宮本 一	

## 東京個人会員

小野 敏夫	石井 ふみ子	木下 弘子
中島 久仁子	木下 新九郎	田中 佐代
小野 久恵	藤枝 幸子	
樋口 多聞	藤島 ひろ美	

〈敬称略・順不同〉

2011 年度版

**日本テレマン協会 社会的活動報告**

The marriage of social and cultural application

CONTENTS

**1：環境**

- 1-1 琵琶湖水質浄化の紙（=レイクパピルス）の使用 . . . . . 9
- 1-2 サラヤ株式会社との協働による「ボルネオの環境保全活動」 . . . . . 10

**2：地域の文化振興**

- 2-1 分権時代の文化＝「受け皿」としてのサロンづくり . . . . . 11
- 2-2 講談と室内楽のコラボレーションによる「音楽絵巻」 . . . . . 13
- 2-3 平野区の「第九」 . . . . . 16
- 2-4 文化的ライフスタイルの提案と実践 . . . . . 16

**3：教育**

- 3-1 日本テレマン協会の学校公演 . . . . . 17
- 3-2 大阪市ユースオーケストラの指導・育成 . . . . . 18
- 3-3 アマチュア団体の指導・育成 . . . . . 18

**4：チャリティー協力**

- 日本テレマン協会とチャリティー . . . . . 19

日本テレマン協会について . . . . . 20



# 1：環境

## 1-1 琵琶湖水質浄化の紙（＝レイクパピルス）の使用

2000年より日本テレマン協会では、主な主催公演のチラシ、プログラムに琵琶湖の水質浄化を目的とする紙「レイクパピルス」を使用してきた。2000年当初はその企画が新聞・ラジオ・テレビで大きく取り上げられ、「環境」などをテーマに社会貢献という姿勢をいち早く示した演奏団体として、挙手することに成功した。

2011年度におけるレイクパピルスの使用は以下の通りである。

\*\*\*\*\*

### 1：プログラムの使用

- ・一部につき400リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに10回、定期演奏会に2回、東京定期演奏会に4回、その他に2回使用
- ・合計6,030部作成
- ・2,412,000リットル（2,412トン）を浄化

### 2：チラシの使用

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに8回と教会音楽シリーズに2回、定期演奏会1回使用
- ・合計51,200部作成
- ・合計10,240,000リットル（10,240トン）を浄化

### 3：その他印刷物

#### 1 「2010年度社会的活動報告」冊子の表紙

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・500部印刷
- ・合計100,000リットル（100トン）

#### 2 ゲオルク配布版における使用

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・6000部印刷
- ・合計1,200,000リットル（1,200トン）



(参考：2000年4月26日 朝日新聞)

### 4：2011年度に浄化した総計

- ・13,952トン

合計で13,952トンの水を浄化したという計算になる。さらに他団体への呼び掛けも進んでおり、2011度より大阪市ユースオーケストラでもレイクパピルスが積極的に使われるようになった。

ユースオーケストラからの報告による2011年度の使用状況は以下の通りである。



(参考：レイクパピルスのロゴマーク)

#### チラシの使用

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・2,500部印刷
- ・合計500,000リットル（500トン）

## 1-2 サラヤ株式会社との協働による「ボルネオの環境保全」

### 【当初の計画について】

2010年度よりサラヤ株式会社との協働により、マレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林保全などを含めた「環境保全プロジェクト」に着手することを計画。計画の具体的な内容は年間6回の定期演奏会（大阪2回／東京4回）のチケット収入の1パーセントを、ボルネオの環境保全などに還元するというもの。その意図するところは代表の中野順哉による以下の提唱に基づいている。

「私たちは大阪の団体である以前にアジアの団体であり、また我々の日常はアジアの自然によって支えられている。演奏活動もそういった日常の上に成り立っているのであれば、そこから得た収入の一部を原点の保護にかえすべきではないか。2010年からの新機軸として『アジア・東洋の演奏団体』であることを、演奏を通して認識し直すような活動をしたい」

ただ、日本テレマン協会は「ボルネオの環境問題」についてその現状を直接見聞きした者は無く、現地で何が大切なのかを正確に理解しているとは言い難い。そこでその分野での活動経験の長いサラヤ株式会社に「年間6回の定期演奏会のチケット収入の1パーセント」をお預けして、今一番大事だと思われる活動への支援にあてていただくこととなった。

ただ最初は「プランテーション化を防ぐ上での土地の取得に特化していただくことは出来ないだろうか」というテレマン協会からのリクエストもあり、それを受けた形で「ボルネオ保全トラスト※1」がおこなう「緑の回廊※2」計画への支援という形になった。2011年度の寄付額は4万円。200円一口で畳一畳分の森を買い取るというトラストの活動に則った言い方を借りれば、200畳の森を保全したことになる。

テレマン協会が「最初は土地の取得で」ということに固執した理由は、大きく二つある。一つは野生の動植物と人間の共存には、「緑の回廊」の早急な実現が必要であると判断したこと。もう一つの理由は協会会長の延原がこよなくオランウータンを愛しているということも。

こういったもろもろの協会側の思いを、サラヤ株式会社は快く引き受け今回の協働が成立した。初年度はまずボルネオの森だが、その後様々な展開へと結び付けていきたいと両者は考えている。文化の団体と企業が一緒に「未来のためにできること、そして継続できること」「本当の文化的生活」の意味を演奏者・お客様とともに考えていければ、と思っている。

### 【2010年度の変更について】

上記の「計画」は3月11日に発生した東日本大震災により、2010年度の寄付予定だった10万円は2011年4月に赤十字社を通し震災義援金として寄付された。2011年度については、支援先のボルネオ保全トラストが募金の一部を「ジャパン・プラットフォーム」に寄付することを表明したことを受け、予定通りこの協働企画が実行されることになった。

### 【2011年度について】

実質的なスタートとなった2011年度、ボルネオの森林保護の問題とともに、震災への息の長い復興支援をも継続させたいという考えから、サラヤ株式会社との協議の結果、以下のような形の寄付を行うことになった。

- ・寄付する先は予定通り「ボルネオ・トラスト・ジャパン」
- ・目的はボルネオの森林保護
- ・ただしボルネオ・トラスト・ジャパンは、寄付金の50パーセントを「ジャパン・プラットフォーム」に寄付。
- ・そうすることで、ボルネオの森林保護と震災復興への継続可能な支援が可能になる。

上記のルールに基づき、2011年は定期演奏会（大阪2回・東京4回）のチケット総収入の1パーセントを寄付することになった。

ただ震災の影響は大きくひびき、想定よりチケット収入はのびず、総収入の1パーセントは4万円という結果になった。

#### ※1 「ボルネオ保全トラスト」とは

ボルネオ保全トラストは、マレーシア・サバ州政府認可の環境保全団体です。野生生物局の関係者や生物学者、環境団体およびサラヤ(株)らによって設立され、傷ついた野生動物の救出活動のほか、生態調査や生息域となる「緑の回廊」実現に取り組んでいます。日本窓口：ボルネオ保全トラスト ジャパン [www.bctj.jp](http://www.bctj.jp)

#### ※2 「緑の回廊」計画とは

アブラヤシ・プランテーション（農園）の無秩序な拡大による熱帯雨林の減少は、野生の動植物の生存危機だけでなく、動物と人間の間に摩擦を生み様々なトラブルを引き起こしています。そこでボルネオ保全トラストでは、野生の動植物の生存に最低限必要とされる川沿岸の開墾地を買い戻して森に再生し、プランテーションによって分断されてしまった森をつないで一つの大きな森「緑の回廊」にする計画に取り組んでいます。

「緑の回廊」が実現すれば、動物たちの食糧や繁殖機会の確保につながり絶滅危機を回避することができるだけでなく、動物の生息域と農業用地の両立という「環境と産業の両立」が実現できると考えられています。



## 2：地域の文化振興

### 2-1 分権時代の文化＝「受け皿」としてのサロンづくり

2011年の代表就任後、中野順哉がもっとも研究したいと考えているテーマ——それは演奏会を通して見い出せる「需要の創造」である。これまで音楽絵巻などを通して各地に入り込み、直接的に文化振興に着手してきた中野であるが、10年を超えるその活動の中で最近また新たな「振興のあり方」を肌で感じていると語っている。それは「少人数のサロンの演奏会では、聴衆が結果的に今まで気づけなかった『新たな需要』を、心の中に発見しているのではないか」ということだ。

「現在のデフレについて少なからず『心の問題』が関わっているのではないか。使うことよりも貯めることを考える…今はモノよりお金により魅力を感じる時代なのではないか」こういった議論は毎日のように新聞紙面を覆っているが、それが事実であるとすれば「需要の発見」も個々の心の中に鍵があり、決して合理的・大量生産的・オートマチックに喚起できるものではないだろう。文化においてもそれは顕著であり、統一された価値観（知名度や話題性など）で「この演奏家は素晴らしい！」という宣伝効果に根拠をおいた公演を、全国均一に文化会館で行うことがどのような結果を現在招いているかはここで論じるまでもないことだろう。語弊を恐れずに言うならばこの「中央集権的」な文化発信は、多分に時代錯誤的なものであり、また少なくともそれを継続させるためには豊富な財源が「中央」より放出されなければならない。それは構造的にも難しいことは明白である。

そこで協会として目指したいと考えるのは「町が変われば価値観が変わる」という「細分化された地方分権的な文化発信」を可能にする環境作りを、より多くの地域で実践するという。軸となるのは「地域での価値観づくり」であるが、これも「与えられたもの」であってはならず、音楽会であれば聴衆と演奏家の相互の結びつきによって、時間をかけて生み出すものでなくてはならない。日本テレマン協会はこれまでにその実践を、大阪倶楽部四階ホールを舞台に「マンスリーコンサート」として継続してきた。そこから中野振一郎、高田泰治、浅井咲乃などを、コンクールではなくサロンの価値観が生み出した奏者として輩出もしてきた。彼らを見出したのはサロン独自の価値観。これこそが分権時代の文化的受け皿ではないかと考えている。

同等のサロン活動を現在数か所で展開している（＝衛星サロン）が、ここ数年で近畿圏を中心により多くのサロンを生み出し、地域の文化力を根底から強化してゆくという活動に積極的に着手したいと考えている。また中野は「価値観を生み出すのは、前提としてのゆるやかな共感のようなものがあってこそ。実はその共感の中に、現代人独特の飢えにも似た需要が眠っているように思えてならない」と語り、サロンの創造と同時に需要の探究にも力を注いでいきたいと考えている。

2011年度における「衛星サロン」の活動は以下のとおりである。

#### 池田アゼリア公演

1977年より継続しているサロンコンサート。ある一定の時期に建設された市民会館の大半には、まだ「室内楽の公演」という意識はなく、音楽用には大ホールしかないというケースが多かった。元来池田市民会館もこのケースに属していたが、市の文化財団の熱意により、会館のエントランスをステージにして、室内楽の演奏会をはじめることになった。現在は会館内にイベントスペースが整備され、新たなシリーズが定着しつつある。固定ファンをベースに毎回200人規模のサロンが形成され、大阪倶楽部とは違った価値観を形成しつつある。2011年度の内容は以下の通り。

2011年 7月23日 第37回バロックコンサート なんてモダンなバロック音楽  
 会場：池田市民文化会館3階イベントスペース  
 曲目：G. Ph. テレマン／リコーダー、オーボエ、ヴァイオリンの為のソナタ イ短調  
 リコーダーとオブリガートチェンバロのためのソナタ 変ロ長調  
 ほか



## 松原ゆめニティー公演

1993年より継続しているサロンコンサート。駅近くの多目的スペースを舞台に、ポピュラーな曲目からマニアックな内容まで幅広いプログラムで楽しまれている。どのような切り口でも「なんとなく集まる」という客層をすでに有しており、独特のサロンを形成出来ていると言える。2011年度は日程の調整などで公演が一時中断しているが、2012年度から再び継続されている。

## 伊丹酒蔵公演

2000年より継続しているサロンコンサート。伊丹市文化振興財団では「みやのまえ文化の郷」の活性化やPRに積極的に取り組んでいる。日本テレマン協会も以前は「いたみホール」を舞台に、サロンコンサートの開催協力をしてきたが、2007年よりこの町の活性化企画に参加することに。会場は旧岡田家の酒蔵。毎回満員御礼で秋の名物となりつつある。またもともと「酒蔵で聞く」ということに興味を持っていた客層より「テレマンの音をもっと良い環境で聞きたい」という意見が多く出てきていることも特徴。2012年度にはそういった意見を反映した公演も予定されており、演奏会の規模的発展を求める傾向を示すサロンとなりつつある。

2011年の内容は以下の通り。

2011年10月29日 テレマンのバロック音楽の宴 vol.18 J.S.バッハ、酒蔵に降臨 PART2  
会場：みやのまえ文化の郷 伊丹市立伊丹郷町館 旧岡田家住宅・酒蔵  
曲目：J.S.バッハ／イタリア協奏曲へ長調 BWV971  
フルート、ヴァイオリン、チェンバロの為の協奏曲 イ短調 BWV1044  
ほか

## 高槻現代劇場公演

2005年より継続しているサロンコンサート。チェンバロ奏者中野振一郎を中心にした内容で、バロック楽器の演奏が主体となる。チェンバロの魅力、バロック時代の珍しい曲目の紹介、カウンターテナーとヴァージナルによる公演など、他のサロンとは一味違う切り口で展開中。2011年度の内容は以下の通り。

2011年8月27日 ティータイムコンサート チェンバロ音楽の旅～女王エリザベスの愛したヴァージナル～  
会場：高槻現代劇場  
曲目：J.ダウランド／流れよ、我が涙  
C.P.E.バッハ／チェンバロ協奏曲 イ長調 Wq.29  
ほか

## うえまちコンサート

2008年より継続しているサロンコンサート。NPO法人まち・すまいづくりは「住んで楽しいまちづくり」をテーマにコーポラティブ住宅の推進と、市民参加のセミナーなどの開催を手掛けている団体。活動の本拠は上町台地周辺地域で、地域密着型の情報伝達媒体となる『うえまち』も発行している。

そして更なる魅力あるまちづくりの促進を求めて、まち・すまいづくりは2008年よりタウンコンサートを始めた。「うえまちコンサート」と題されたこのシリーズは、会場を上町台地にある様々な「集いの場」に開催しているのが特徴。ホテルのチャペル、神社、寺、博物館…。日本テレマン協会のヴァイオリン奏者・中山裕一が第1回公演より出演。第3回公演より協会としても正式に「協力」という形で参加することになった。

どちらかと言えばポピュラーな路線を好む傾向のあるサロンコンサートだが、中にはチェンバロによるかなりマニアックなソロコンサートもあり、緩急取り混ぜたコンテンツとなっている。

2011年度の公演は以下の通り。

2011年 4月 2日 第13回うえまちコンサート ターフェルクインテット in 生玉の杜  
会場：生國魂神社 参集殿

2011年 7月17日 第14回うえまちコンサート 大阪歴史博物館開館10周年記念  
会場：大阪歴史博物館 講堂

2011年10月16日 第15回うえまちコンサート in 一心寺三千沸堂  
会場：一心寺 三千沸堂

2012年 1月29日 第16回うえまちコンサート 能舞台でバロック！ in 山本能楽堂  
会場：山本能楽堂

## 2-2 講談と室内楽のコラボレーションによる「音楽絵巻」

地域の郷土史家などに直接取材をし、それを創作台本にして音楽をおりまぜる「音楽絵巻」という企画。主に講談などの日本の古典芸能と室内楽が共演。郷土史を見直し、地域住民とともに新たな発見をめざす完全なオーダーメイドのコンサートである。

この企画がスタートしたのは2002年だが、その後各地における認知度も高くなり、現在のべ60か所を超える市町村で実施。講談の作品数にして90作を突破している。2011年度も例年通りNHK大河ドラマ「お江」「平清盛」などをテーマにしたものが目立ったが、以下の点に於いて変化があったと思われる。

### 1：地域の問題の解決や若年層に対するアプローチ

- ・若年層に地域の魅力を伝えるため、オープニングに地域の中高校生（演劇部など）に出演してもらい、用意した「口上」を講師とともに述べるという公演があった。
- ・同じく若年層に地域の魅力を伝えるため、テーマとなった御当地ゆかりの人物について地域の書道家や学生に話をし、そこから得たイメージをもとに書を書いてもらった。→当日会場にて展示。
- ・有名な作家によって地域的には「不当」な評価を与えられた人物を、違った視点で再評価してほしいというオファーがあった。
- ・ベッドタウンとして発展したエリアが、時間とともに老朽化し、その地域に住んでいながら「地域について何も知らない」という層を持つ…その打開を目指したいというオファーがあった。

### 2：舞台内容の立体化

- ・プロジェクターなどを使用し、ストーリーに関連した地域の風景や地域に残る古い絵や写真を公演中に映し出すというステージが多かった。そういったデータの収集や編集にも地域の人が参加していたことが特徴的であった。
- ・御当地ゆかりの歴史的な建造物をステージにした公演があった。
- ・舞台効果をさらにあげる工夫を要求してきた公演もあった。結果的にはホリゾンなどを利用したのだが、地域の歴史などに興味をもった照明の専門家との協働という形をとることになった。

### 3：取材網の拡大にともなう取材内容の深化

- ・地元の郷土史家からの取材だけではなく、それを専門とする研究者に対しても独自の取材を行った。そうすることで地域の郷土史家の打ち出したいテーマを、より輪郭の整ったものにすることが可能になった。
- ・またテレマン協会独自の取材網で、歴史研究者とのコンタクトを取ることが出来るようになったことは継続のたまものであり、他の音楽団体にはない「大きな力」を得たと言えるかもしれない。

### 4：地域特産品など物品販売の促進

- ・演奏会場で地域の特産品・開発商品などを販売。例えば奈良県五條市において「南朝ラムネ」という梅風味の清涼飲料水を販売したところ、その売れ行きは大変好調であったという報告を受けている。
- ・次年度以降、御当地ゆかりの和菓子などの販売をリンクさせたいという企画も出てきている。

以上のような点から、各地での経験や出来あがった情報網を駆使し、より内容の濃い、地域に適した内容を構成することが出来るようになったと言えるのではないだろうか。違ったテーマで複数回「音楽絵巻」を依頼する自治体が出てきたことも継続の成果と言える。特に兵庫県小野市は2011年3度目の公演を開催したが、今後も継続してゆきたいという地域の声が高く、更なる継続が見込まれる。



原則的に台本に対する著作権はフリーとし、二次利用、三次利用がしやすい状況を提供し続けている点も評価されている。ネット配信などを通し、町の魅力を広く伝えることが出来るツールとして幅広く使用してもらいたいと考えている。

また時間をかけて台本作りに参加したいという主催者も出てくるなど、より深い地域とのふれあい・心の通う文化振興の可能性も出てきている。

2011年度の公演詳細は以下の通りである。

(2011年度「音楽絵巻」実績)

- 2011年 5月 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：ふるさと小野音楽絵巻Ⅲ  
「一柳満喜子伝～我もまた、いずれの日にか・～」
- 2011年 5月 茨木市民総合センター：大阪：音楽絵巻「茨木にこの男あり片桐東市正且元にて候」
- 2011年 7月 ハーモニーホールふくい：福井：音楽絵巻「お江・・・越前北ノ庄哀歌」
- 2011年10月 灘区民ホール：兵庫：なだ音楽絵巻「真・平清盛伝・灘編～改革者一海原に見た夢～」
- 2011年10月 伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎伝」
- 2011年10月 五條市市民会館：奈良：歴史音楽絵巻「救世主・松倉重政」
- 2011年12月 三木市文化会館：兵庫：兵庫県立三木高等学校音楽観賞会

(参考：講談・朗読コラボレーション公演及び地域活性化講談公演のこれまでの履歴)

- 2002年 3月 安土文芸セミナリオ：滋賀：音楽絵巻「信長の聴いた音楽」
- 2002年 5月 神戸新聞松方ホール：兵庫：「メサイア」(日本テレマン協会公演)
- 2002年 6月 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「ヘンドルー代記」
- 2002年 6月 高槻現代芸術劇場：大阪：音楽絵巻「ヘンドルー代記」
- 2002年 8月 石川県立音楽堂：石川：音楽絵巻「利家の聴いた音楽」
- 2002年11月 尼崎市近松記念祭：兵庫：講談「国姓爺合戦」
- 2002年11月 丹波国際音楽祭企画：兵庫：講談「走れメロス」「魔王」
- 2003年 2月 柏原高等学校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」
- 2003年 3月 鳳鳴高等学校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」
- 2003年 6月 貝塚市民文化会館コスモシアター：大阪：「モーツァルト VS ベートーヴェン」
- 2003年 7月 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「ヴィヴァルディー代記」
- 2003年 7月 新宮市民会館：和歌山：音楽絵巻「西村伊作」
- 2003年11月 秋篠音楽堂：奈良：クララ・シューマンによる「シヨパンとリスト」
- 2004年 4月 神戸市立葺合高等学校：兵庫：講談付き学校公演
- 2004年 5月 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「バッハ一代記」
- 2004年 7月 大阪倶楽部：大阪：大阪新音企画・音楽絵巻「近代文学散歩」
- 2004年 9月 神戸新聞松方ホール：兵庫：音楽絵巻「アマデウス」
- 2004年10月 熊野市民会館：三重：音楽絵巻「源平盛衰記」熊野古道編
- 2004年10月 湖東町(現東近江市)：滋賀：音楽絵巻「湖東商人銘々伝」
- 2004年11月 姫路東中学校：兵庫：講談付き学校公演
- 2004年11月 東京国立博物館：東京：音楽絵巻「森鴉外」
- 2004年12月 播磨町教育委員会：兵庫：音楽絵巻「漂泊」(講談「ジョセフ彦」)
- 2004年12月 住吉区：大阪：音楽絵巻「熊野街道」
- 2005年 1月 日本郵船「飛鳥」オセアニアクルーズ：音楽絵巻「漂泊」ほか
- 2005年 2月 近江八幡市民会館：滋賀：音楽絵巻「心に華開く時」山田良定
- 2005年 2月 大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「義経の七つ石」
- 2005年 4月 伊賀上野市民会館：三重：音楽絵巻「荒木又右衛門」
- 2005年 5月 大江山町：京都：世界鬼学会講演・講談「大江山異聞」
- 2005年 9月 高知県グリーンホール：高知：音楽絵巻「山内一豊」土佐編
- 2005年11月 東京国立博物館：東京：葛飾北斎展企画・「真曾我兄弟」ほか2話
- 2006年 1月 山東町ルッチプラザ：滋賀：音楽絵巻「石田三成」
- 2006年 3月 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：音楽絵巻「長祿の変」
- 2006年 7月 金光八尾高等学校：大阪：講談付き学校公演
- 2006年 7月 三鷹市風のホール：東京：音楽絵巻「新・功名が辻」
- 2006年 7月 掛川市シーネ：静岡：音楽絵巻「山内一豊」掛川編
- 2006年 7月 日本郵船「飛鳥Ⅱ」カムチャツカクルーズ：音楽絵巻「ある日の大黒屋光太夫」
- 2006年 9月 大阪市役所：大阪：音楽絵巻「モーツァルト」
- 2006年10月 羽曳野市リックはびきの：大阪：音楽絵巻「源氏三代記異聞」
- 2006年10月 東郷町：愛知：音楽絵巻「とうごう六景」
- 2006年10月 名張市青少年センター：三重：音楽絵巻「藤堂高吉公一代記」
- 2007年 2月 N E Cマイタウンコンサート：福岡：九州交響楽団共演
- 2007年 4月 横須賀芸術劇場：神奈川：音楽絵巻「三浦一族記異聞」
- 2007年 9月 びわこビクターズビューロー(開催地は神奈川県民ホール)：神奈川：音楽絵巻「信長が愛した音楽」
- 2007年 9月 大東市サーティーホール：大阪：音楽絵巻「ぶらり大東今むかし」
- 2007年 9月 伊丹ホール：兵庫：宝塚西高等学校音楽鑑賞会
- 2007年11月 三田市総合文化センター：兵庫：三田西陵高等学校音楽鑑賞会
- 2007年11月 天理南中学校：奈良：文化祭イベント
- 2008年 3月 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：音楽絵巻「加古川筋一揆」
- 2008年 5月 安土文芸セミナリオ：滋賀：音楽絵巻「信長が愛した音楽」
- 2008年 6月 神河町グリーンデルホール：兵庫：神河音楽絵巻「銀の馬車道今むかし」
- 2008年10月 伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」
- 2008年10月 彦根観光協会(会場は彦根城博物館 能舞台)：滋賀：彦根音楽絵巻「開国物語 井伊直弼外伝」
- 2008年10月 大阪商工会議所(会場はフジハラビル)：大阪：音楽絵巻「フジハラビル物語」
- 2008年10月 守山市民ホール：滋賀：守山音楽絵巻「人ゆえに、愛ゆえに…」
- 2009年 1月 松江市総合文化センタープラハホール：島根：音楽絵巻「松江城今昔秘話」
- 2009年 2月 びわこビクターズビューロー(開催地は江戸東京博物館)：東京：ひこにゃんのでてく「歴史街道」
- 2009年 2月 日本郵船「飛鳥Ⅱ」南太平洋グランドクルーズ：音楽絵巻「大江山奇談。鬼の道に、横道なし」
- 2009年 3月 丹波の森公苑ホール：兵庫：創作講談と音楽のコラボレーション「恋路の丹波刀旅」





- 2009年 6月 有馬・念仏寺：兵庫：講談と室内楽公演「小さな島国のオルガン」
- 2009年 7月 大津市民会館：滋賀：音楽絵巻「淡海街道物語」
- 2009年10月 近江八幡市立資料館：滋賀：音楽絵巻「一柳満喜子伝」
- 2009年10月 伊賀上野：三重：講談ウォーク「筒井定次」「藤堂高虎」ほか
- 2010年 6月 大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「真・役小角伝」
- 2010年 7月 兵庫県立芸術文化センター主催：兵庫：「キャンディード」プレ
- 2010年 9月 伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「伊賀の乱」
- 2010年10月 伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」
- 2010年11月 伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高吉」
- 2010年11月 りそな銀行大阪本店地下講堂（ドイツ文化センター主催）：大阪：音楽絵巻「恋模様刀の旅路」
- 2010年12月 多気町民文化会館：三重：音楽絵巻「二人の客人（まろうど）」

## 2011年10月 五條市公演の様子

「音楽絵巻」は、これまで曖昧な点が少なくなかった「文化による町づくり」の成果を、より可視的に具現化できる力をもっていると言える。その例として奈良県五條市での公演を紹介したい。



これらの「書」は上演されるストーリーの主人公の生きざまをテーマに、地域の書道家や子供たちがイメージして書いた言葉。当日会場エントランスにて展示をすることで、地域の盛り上がり、テーマの本質などを世代を超えて共有することが出来たと思われる。



本公演前に協会で用意した「口上」を台本として、五條高校の演劇部の生徒さんにも出演してもらった。彼女たちの熱演が、友人や知人など周辺の若年層に「地域の魅力」を力強く伝えたと言える。



講談とテーマを同じくする、地域の子供による踊りが存在しているということを知り、全公演の冒頭に賛助出演していただいた。これも口上と同じく、幅広い層に地域の魅力を伝える大きな力となったと思われる。

## 2-3 平野区の「第九」

2000年より一般市民の希望者を公募し合唱団をつくり、「五カ年計画」でベートーヴェン作曲の交響曲第9番を指導。毎年達成したところまでを発表し、5年後には最後まで歌えるようにするという、直接的に「地域の文化意識の向上」を実現させようという企画。すでに最初の「五カ年計画」は達成され、その結果に対する市民の喜びは大きく、2006年度より毎年平野区の恒例行事として継続されている。

2011年12月14日 平野区クリスマスコンサート  
会場：コミュニティプラザ平野

## 2-4 文化的ライフスタイルの提案と実践

日本テレマン協会では「町の中の空間」と「演奏」という組み合わせについて、発足以来独自のこだわりのもと、様々な試みを繰り返して来た。それは大阪倶楽部でのマンスリーコンサートやカトリック夙川教会聖堂に始まり、神社仏閣、博物館、ティールーム、地下街…など多岐にわたっている。

「クラシック音楽がいつまでも日本人にとって異国・異質の文化であってはならない。確かにヨーロッパでは幅広い層に愛好家はいる。しかし『自国の文化だから』という意識で親しまれているわけではない。日常の中に溶け込んだ、空間・時間のひとこまとして本場でも親しまれているのではないだろうか。ならば日本でも、親しみのある『日常』の中に演奏を溶け込ませることが大事だろう。それこそが室内楽の使命なのかもしれない」創設者の延原武春はそのように考え、積極的に「町の中」での演奏会を展開してきた。

それはまた受け手である聴衆にとっては「町の魅力の再発見」であり、またそういったきっかけがライフスタイルにも実りある変化を与える可能性を持っていることは言うまでもない。こういった発想の活動を「文化的ライフスタイルの提案と実践」と名付け、大阪を中心に今後、より充実した活動にしてゆければと考えている。

現在継続している上記のカテゴリーに充当する活動は以下の二事業である。

### 大大阪レトロナイト

大阪の夜の新しい魅力をPRするため、大阪商工会議所、大阪市、(財)大阪観光コンベンション協会が推進する活動。大阪に残る近代建築を舞台に、様々なジャンルの催しを広く広報するというもの。日本テレマン協会としては2011年度、以下のコンサートにおいて、この活動に参加した。

2011年 4月19日 大阪倶楽部：高田泰治 W.A. モーツァルト ピアノ協奏曲大全 Vol.3  
2011年 5月13日 大阪倶楽部：第422回マンスリーコンサート  
2011年 6月 9日 大阪倶楽部：第423回マンスリーコンサート  
2011年 7月15日 大阪倶楽部：第424回マンスリーコンサート  
2011年 8月11日 大阪倶楽部：第425回マンスリーコンサート  
2011年 9月 5日 大阪倶楽部：第426回マンスリーコンサート  
2011年 9月30日 大阪倶楽部：高田泰治 W.A. モーツァルト ピアノ協奏曲大全 Vol.4  
2011年10月 6日 大阪倶楽部：第427回マンスリーコンサート  
2011年12月 6日 大阪倶楽部：第428回マンスリーコンサート  
2012年 1月16日 大阪倶楽部：第429回マンスリーコンサート  
2012年 2月16日 大阪倶楽部：第430回マンスリーコンサート  
2012年 3月13日 大阪倶楽部：第431回マンスリーコンサート

### アバンザランチタイムコンサート

巨大な書店などでも利用者の多い堂島アバンザ。このオフィスビルのエントランスを舞台に無料コンサートを展開。2011年より日本テレマン協会が本格的にプロデュース参加。コンテンツは以下の通りであった。中でも10月の浅井咲乃によるヴィヴァルディ「四季」全曲公演は200人以上の聴衆が集まった。「四季」の公演は今後も同時期の「名物プログラム」として継続してゆきたいと考えている。

2011年 4月22日 第69回アバンザランチタイムコンサート 春色木五  
2011年 6月14日 第70回アバンザランチタイムコンサート 「テレマン」の新星—浅井咲乃の音  
2011年10月 7日 第71回アバンザランチタイムコンサート A. ヴィヴァルディ「四季」全曲  
2011年12月16日 第72回アバンザランチタイムコンサート アバンザより愛をこめて… Ave Maria

# 3：教育

## 3-1 日本テレマン協会の学校公演

日本テレマン協会は発足以来「子供向け」ではなく「子供のための」を基本コンセプトに各地で学校公演を開催してきた。その方向性も多様であり、通常の公演のほかにも演奏を得意とする生徒をソリストにした公演や、地域の子供たちと一緒に歌う「第九」といった共演なども行ってきた。更には養護学校、不登校児童、重度の知的障害者などを対象にした公演も実施してきた。我々の公演に出会うことで実際に演奏家を目指したという例もある。

最近では講談によって音楽家像を描き、古典芸能の魅力から音楽に親しんでもらおうという試みも行っている。同時に興味の多様化する子供たちに対応すべく、身近な曲をバロック的に編曲し、それを共演することによって楽しみながらこのジャンルの魅力を体感してもらおうという試みも始めている。さらにはパナソニック株式会社との提携により、環境問題に対する問いかけを加味した内容も準備している。「温暖化の中で失われる天然素材。楽器作りにも大きな影響を与えかねない状況をプロジェクターなどで紹介し、今聴いている音・感動を次世代の子供たちにも聞かせるためには…」そんな問いかけとともにヴィヴァルディ「四季」を聞いていただき、考えるという内容。

2011年度の学校公演は以下の通りである。昨年同様豊岡市の小学校は少数のメンバーによる巡回公演であった。今年度はティンパニ奏者の山下嘉範氏が演奏。

特に印象に残ったのは天王寺高校の公演。「プロの仕事」を体感してもらおうべく、吹奏楽部の生徒さん数名に舞台上がっていただき、ヘンデルやバッハをトランペット、フルートなどで共演。生徒さんの予想以上の好演に会場は大いに盛り上がった。

一方、ここ数年文化庁の体験事業に参加してきたが、今年度は採択されなかった。そのために公演数自体は減少。採択されなかった理由に「演奏時間が短い」という指摘があった。元来お話とともに演奏を楽しんでもらうというスタイルをとってきた我々にとって、そこに思わぬ盲点があったことも改めて認識することに。協会の演奏家の急速な成長とともに「そのままをじっくり聞かせてあげる」ということにも自信を持てる現状を省みると、せつかくの機会を「お話」で奪うことのないよう、考え方を根本から変えたプログラム作りが要求されていると言えるのかも知れない。これは文化庁に限ったことではなく、広く学校公演自体を視野にいれ、現在試行錯誤を重ねている。

なお内容を大幅に改善することで2012年度は文化庁の体験事業に採択されている。



2011年	5月	6日	明石市立鳥羽小学校 (県民芸術劇場)
2011年	5月	12日	川西市立多田東小学校
2011年	5月	26日	豊岡市立合橋小学校
2011年	5月	26日	豊岡市立資母小学校
2011年	5月	27日	豊岡市立高橋小学校
2011年	5月	27日	豊岡市立寺坂小学校
2011年	6月	2日	豊岡市立小野小学校
2011年	6月	2日	豊岡市立小坂小学校
2011年	6月	3日	豊岡市立弘道小学校
2011年	6月	3日	豊岡市立福住小学校
2011年	6月	16日	豊岡市立西気小学校
2011年	6月	16日	豊岡市立清滝小学校
2011年	6月	17日	豊岡市立三方小学校
2011年	6月	17日	豊岡市立府中小学校

2011年	6月	23日	豊岡市立静修小学校
2011年	6月	23日	豊岡市立八代小学校
2011年	6月	24日	豊岡市子育てセンター
2011年	6月	24日	豊岡市立日高小学校
2011年	6月	28日	大阪府立天王寺高等学校
2011年	6月	29日	三田市立あかし台小学校 (県民芸術劇場)
2011年	10月	22日	多可町立八千代西小学校 (県民芸術劇場)
2011年	10月	26日	豊岡市立豊岡小学校
2011年	10月	26日	豊岡市立竹野南小学校
2011年	10月	27日	豊岡市立中筋小学校
2011年	10月	27日	豊岡市立三江小学校
2011年	11月	7日	豊岡市立城崎小学校
2011年	11月	7日	豊岡市立港東小学校
2011年	11月	8日	豊岡市立奈佐小学校
2011年	11月	8日	豊岡市立港西小学校
2011年	11月	17日	豊岡市立田鶴野小学校
2011年	11月	17日	豊岡市立五荘小学校
2011年	11月	18日	豊岡市立新田小学校
2011年	11月	18日	豊岡市立神美小学校
2011年	11月	24日	豊岡市立中竹野小学校
2011年	11月	24日	豊岡市立竹野小学校
2011年	11月	25日	豊岡市立八条小学校
2011年	11月	25日	豊岡市子育て総合センター
2011年	12月	15日	兵庫県立三木高等学校

### 3-2 大阪市ユースオーケストラの指導・育成

延原武春は1980年代よりゲルハルト・ボッセらとともに大阪市ユースオーケストラの団体・奏者の育成に従事し、これまでに漆原啓子やテレマン室内オーケストラの前コンサートマスターの中山裕一など多くの演奏家を輩出してきた。2010年からは団員の自主性の育成や、音楽を通してのコミュニケーションを図るために室内楽にも取り組み始めた。現在でも延原のほか、テレマン室内オーケストラの奏者による指導・教育は継続されている。

さらに2010年からは社会的貢献も視野に入れ、レイクパピルスの使用も開始した。

#### 【2011年度の活動】

2011年4月29日 大阪市ユースオーケストラ 第34回グリーンコンサート

会場：なにわのみやホール

出演：指揮／中山裕一・今井良

大阪市ユースオーケストラ

曲目：W.A. モーツァルト／アヴェ・ヴェルム・コルプス（東日本大震災 鎮魂と追悼のための献奏）

L. アンダーソン／トランペット吹きの日・フィドル・ファドル

F. シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D485

ほか

2011年9月20日 大阪市ユースオーケストラ 第41回定期演奏会

会場：大阪フィルハーモニー会館

出演：指揮／延原武春・中山裕一

大阪市ユースオーケストラ

曲目：A. ヴィヴァルディ／2つのヴァイオリンのための協奏曲 イ短調 作品3-8

W.A. モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 Kv219 より第1楽章

交響曲 第27番 ト長調 Kv199

ほか



### 3-3 アマチュア団体の指導・育成

#### フィルハーモニア福岡

2000年夏に福岡市内の大学オーケストラ出身者が結成したアマチュア管弦楽団。延原武春はその結成当初より指導・育成に当たっている。現在は参加者も増え約50名が在籍。年二回のペースで定期演奏会を続けている。

#### 【2011年度の定期演奏会】

2012年2月26日 第22回定期演奏会

会場：アクロス福岡

出演：指揮／延原武春

ヴァイオリン／浅井咲乃

曲目：L.v. ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

J. ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90

#### コードリベット・コール

1952年に櫻井吉明氏が結成した大阪のアマチュア合唱団。1971年の共演以来日本テレマン協会との関係を深め、櫻井氏亡き後、代表の延原武春が指導・育成に携わってきた。2011年度は共演していないが、月に2回以上延原が指導を続けた。

## 4：チャリティー協力

### 日本テレマン協会とチャリティー

日本テレマン協会はこれまで阪神大震災やニューオリンズのハリケーン、JR福知山線脱線事故メモリアルコンサートのほか様々な災害へのチャリティーコンサート活動を続けてきた。クラシック音楽のコンサートに対する社会の受け入れ方が年々変化しつつある中で、人と人をつなぐ場であるという理念を協会としては今後も大切にしていきたい。そういった意味で「チャリティーコンサート」への参加を積極的にすすめてゆく考えである。

2011年度のチャリティーコンサートおよび募金活動への参加は以下の通りである。

- 1：ボルネオの環境保全活動（1-2 参照）
- 2：マンスリーコンサートにおけるユニセフ募金活動への協力
- 3：JVC国際ボランティアセンターの主催による連続公演

#### ※ JVC 国際協力コンサートとは

日本国際ボランティアセンター（JVC）の活動を応援するためのベネフィットコンサート。コンサートの収益はJVCに寄付される。実行委員長アイネス・M・バスカビルの「美しい楽曲『メサイア』で、JVCのためのチャリティーコンサートを開きたい」という呼びかけに対しボランティアが集まり、1989年「JVCコンサート実行委員会」が発足。以来東京では18回、大阪でも13回の公演が催されてきた。日本テレマン協会は1994年よりこのコンサートに参加。2010年は昨年に引き続き東京・大阪両公演に出演した。

#### 【2011年度のJVC国際協力コンサート】

- 12月 4日 第23回東京公演 JS. バッハ『クリスマス・オラトリオ』  
会場：昭和女子大学人見記念堂  
共演合唱団：JVC 合唱団
- 12月10日 第18回大阪公演 ヘンデル『メサイア』  
会場：いずみホール  
共演合唱団：コードリベット・コール



## 日本テレマン協会について

延原武春によって創設されたバロックからベートーヴェンまでを専門とする室内楽団。「テレマン室内オーケストラ」と「テレマン室内合唱団」を有し、また「日本テレマン協会後援会」という支援団体がサポートをしている。

設立は1963年。当時大阪音楽大学の学生だった延原武春が「バロック音楽の普及・啓蒙」と「楽しさ」をテーマに、新しい演奏会の可能性を追求すべく「テレマン・アンサンブル」を結成したのがその始まり。「定期演奏会」のほか、聴衆とともにサロンを形成しようとした「マンスリーコンサート」、宗教音楽を教会の聖堂で奏でる「教会音楽シリーズ」などを軸とし、関西を中心に全国的な活動を展開。1977年「文化庁芸術祭優秀賞」、1986年「第17回サントリー音楽賞」を関西の団体としては初めて受賞。

2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲をクラシカル楽器にて公演。これが引き金となって延原は2009年ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。以後延原は日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などを指揮し、好評を博したことは皆さんにとっても記憶に新しい。

2011年、代表が延原から中野順哉に交代。現在は「音楽団体が社会に対して出来ること」をテーマに、「琵琶湖の水質浄化」「街と音のコラボレーション」「ボルネオの森林保全プロジェクト」「関西発クラシック『国産』宣言」をはじめ様々なオピニオンをかかげた新しい団体として生まれ変わりつつある。



## 関西発クラシック「国産」宣言

新代表・中野順哉によって生まれたオピニオンの第一弾。きっかけは東日本大震災以後外国人の演奏家が来日しにくいという事態に陥った折、多くの新聞が「興業にどのような損害があるか」と報道していたことだった。中野としてはこの時期にこそ、クラシックの分野における「国産」とは一体何であったのかを問い直したいと考えた。「国産」とは「演奏家が日本人」という意味ではなく、この国で何が育まれたのかという「場」の力のこと。例えば大阪で毎月開催してきたマンスリーコンサート。「コンクールではなく国内のサロンから演奏家を生みたい」という延原武春の思いのもと、ここでは演奏家と聴衆とともに独特の価値観を生み出してきたといえる。その価値観をベースに中野振一郎、高田泰治、浅井咲乃といった演奏家も輩出された。協会としてはこれを一つの生産的なモデルケースとし、また精神の支柱の一つとすべくロゴを作成し、協会の新たな旗印とすることにした。



## テレマンとは



ゲオルク・フィリップ・テレマン。1681年3月14日～1767年6月25日。後期バロック音楽のドイツ人作曲家。バッハ、ヘンデルも足元に及ばない高い評価を受けていた作曲家で、大変な多作家としても有名。延原武春はテレマンの自叙伝にあった「人が喜ぶために作曲している」という言葉に感銘を受け、彼の名をかかげたグループを結成した。代表的な作品は「食卓の音楽」という曲集。食事の時に奏でる曲集という発想自体にテレマン独自の人に対する優しさがあると言える。

大変面倒見の良い人物でもあったようで、バッハの次男の名付け親でもあり、また自身がハンブルクで臨終の時を迎える際、後継者にその「次男」を指名したという逸話も残っている。またヘンデルとの親交は深く、ロンドンから様々な珍しい植物をヘンデルは彼宛に送っていたとか。またテレマンが「食卓の音楽」を出版する際、予約者の最初の方にヘンデルの名が入っていることも有名な話。

バッハ、ヘンデルにとっては「偉大なる先輩」であったテレマン。彼の作品だけではなく、その心意気を伝えたい…それが私たちの使命でもある。

## 延原 武春 TAKEHARU NOBUHARA (日本テレマン協会 音楽監督)

1963年にテレマン・アンサンブル(現・テレマン室内オーケストラ)を創設。彼らを率いて「大阪文化祭賞」をはじめ「文化庁芸術祭・優秀賞」(関西初)・「第17回サントリー音楽賞」(関西初)等の数々の賞を受賞。

テレマン室内オーケストラや自身が指導するテレマン室内合唱団とともに、教会の聖堂を舞台としてG.Ph.テレマン作曲の「マタイ受難曲」やマテゾン、テレマン、ヘンデル、カイザーが競作した「プロクセス受難曲」など本邦初演の18世紀のオラトリオや宗教曲を次々に公演。又、その活動は18世紀の作品を超え、W.A.モーツァルト「レクイエム」、F.J.ハイドン「天地創造」、「四季」、M.ハイドン「レクイエム」、L.v.ベートーヴェン「荘厳ミサ曲」、G.フォーレ「レクイエム」等へと拡張していった。

器楽曲のレパートリーは更に広く、J.E.ガーディナー、F.ブリュッヘンやC.ホグウッド、G.ボッセといった指揮者のほか、M.アンドレ、F.アーヨ、M.ラリーユ、J.ランパル、H.J.シェレンベルガー、P.ダム、A.ビルスマ、J.ヴァーレーズ、B.ジュランナー、G.カーなど、各ジャンルの名手たちとの共演を重ねてきた。

1982年、初演当時の編成とベートーヴェン自身の指定したテンポに基づいて「第九」を指揮(世界初の試み)。J.E.ガーディナーやC.ホグウッドら古楽系の指揮者がその録音を参考にするため自国に持ち帰っている。

2006年11月には「ピリオド・インストゥルメント・プレイヤーズ」(PIP)を立ち上げ、クラシカル楽器(古典派時代のピリオド楽器)による第九を公演。さらに2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲および合唱幻想曲、荘厳ミサ曲の計11曲を、クラシカル楽器を使用して指揮するという連続公演を行った。この公演が引き金となってドイツ連邦共和国より「ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。

これまでにライブツィヒ放送オーケストラ、ゲヴァントハウス・バッハ・オーケストラなどのほか、オーケストラ・アンサンブル金沢、九州交響楽団などを指揮し好評を博している。2010年より大阪フィルハーモニー交響楽団を連続的に指揮するシリーズがスタート。3年をかけてベートーヴェン交響曲全曲を公演予定。また同年日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会(横浜)を指揮。2011年「一日だけのオーケストラ」としてorchestra Japan 2011を結成し、マーラーの交響曲第4番を好演。

「ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章」「兵庫県文化賞」「神戸市文化奨励賞」「第9回井植文化賞」「第15回ブルーメール賞」「平成12年度兵庫県功労者表彰(県民生活振興功労賞)」等が授与されている。



## 中野 順哉 JUNYA NAKANO (日本テレマン協会 代表)



作家。小説作家・阿部牧郎、浄瑠璃台本を人間国宝の七世鶴沢寛治の各氏に師事。関西学院大学在学中より日本テレマン協会の活動に参加。1993年には同協会の季刊誌「ゲオルク」を立ち上げる。卒業と同時に作家・阿部牧郎に師事。2000年、伴ピーアール社製の琵琶湖浄化の紙(レイクパピルス)を、チラシ、プログラムやゲオルクの表紙に使用。テレマン協会の活動が年間5000トン以上の湖水を浄化するというこの企画は、テレビ、ラジオ、新聞等で大きく取り上げられ話題を呼んだ。

同年9月、日本テレマン協会第137回定期演奏会「ヘンデル・オラトリオ本邦初演シリーズ『スザンナ』」において、ナレーション用の講談台本を執筆。これを機会に旭堂南左衛門とともに創作講談を手掛ける。同時に各地の歴史を掘り起こし創作講談と音楽のコラボレーションをプロデュースしながら、文化振興につとめている。講談の執筆は90作以上にのぼる。

2011年、延原武春の後を継ぎ、日本テレマン協会代表に就任。「関西発クラシック国産宣言」などをはじめ「音楽家が社会に対して出来ること」という視点でオピニオンを発信し続けている。

作家活動としては2000年に「小説・延原武春」を出版している。

## テレマン室内オーケストラ

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。

1990年バロック・ヴァイオリンのサイモン・スタンデイジをミュージック・アドバイザーとし、バロック楽器(18世紀当時の楽器およびそのレプリカ)による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハ・フェスティバル」に出演し、C.P.E.バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器(古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ)による演奏を始め、2007年には同楽器によるF.J.ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。

2012年よりドイツよりヴァイオリニスト、U.ブンディースを首席客演コンサートマスターとして招き、新たな方向の音づくりに力を注いでいる。



## テレマン室内合唱団



1968年に延原武春が創設した合唱団。主にテレマン室内オーケストラとともに演奏活動を続けており、1985年にはドイツで開催された「J.S.バッハ生誕300年記念国祭音楽祭」に招聘され現地でも話題となる。カトリック夙川教会に於ける「教会音楽シリーズ」は公演回数160回を数え、当合唱団にとっての最も大きな活躍の場となっている。これまでに、ヘンデルの10種類の違ったバージョンを年一回のサイクルで連続的に公演した「メサイア10年連続公演シリーズ」、「ヘンデル本邦初演オラトリオシリーズ」、或いは、幻のテレマン作受難曲集の公演「テレマンプロジェクト」、「延原武春の受難曲シリーズ」などを開催してきた。

## 1960th

- 延原武春氏を中心にテレマンアンサンブル発足 (63) (現:テレマン室内オーケストラ)
- マンスリーコンサートスタート (63)
- 定期演奏会スタート (65)
- 津村別院でのマンスリースタート (68)
- テレマン室内合唱団が発足し、室内楽における総合団体「大阪テレマン協会」となる (69)
- 大阪文化祭賞 (66 以後 72 と 82)

## 1970th

- モーツァルトサロンでのマンスリースタート (70-75 まで 毎日国際サロンでは 84 まで)
- 教会音楽シリーズスタート (71)
- 教会音楽シリーズ特別公演テレマン作曲「マタイ受難曲」を東京・大阪で本邦初演。さらに「皆で歌おう Sing-in メサイア」を開催 (75)
- 「大阪テレマン協会」から「日本テレマン協会」に改称 (79)
- テレマン室内合唱団創立 10 周年を記念して、初めて J.S. バッハ「マタイ受難曲」をノーカットで演奏する (79)
- 音楽クリティッククラブ賞 (70 以後 75 と 76)
- 大阪府民劇場賞 (75 以後 85)
- 文化庁芸術祭優秀賞 (77) (関西より初受賞)

ビクターレコード制作「テレマン協会シリーズ」発売開始 (77)

## 1980th

- G.Ph. テレマン生誕 300 年を記念し、コンサート (文化庁芸術祭主催)、出版、レコード発売を行う (81)
- 定期演奏会にて L.v. ベートーヴェン交響曲第 9 番「合唱付」を合唱団・オーケストラ合わせて 100 人で演奏 (100 人の第九) (82)
- マンスリーの会場が大阪倶楽部になる (84)
- ▽テレマン室内管弦楽団がドイツを演奏旅行。テレマンの生地マクテブルクでの公演実現 (82)
- サントリー音楽賞 (85) (関西より初受賞)
- ▽テレマン室内合唱団・同管弦楽団総勢 70 名、東ドイツを演奏旅行。「バッハ生誕 300 年記念国際音楽祭」には日本唯一の楽団として出演 (85)
- ▽「ベルリン市制 750 年記念音楽祭」に参加。また、ロンドンデビュー公演が実現。「ソウル国際音楽祭」参加。日本の室内楽団では初の韓国公演 (87)
- ▽フランス革命 200 年を記念し、パリ、ボルドー、ヴァルドアーズ各都市で公演を行う (89)

- テレマン室内合唱団が創立 20 周年を迎え、教会音楽シリーズも 100 回記念演奏会を行う (89)

## 1990th

- バロック楽器の団体「コレギウム・ムジクム・テレマン」が発足。サイモン・スタンディジや中野振一郎主導のもとで、様々な試みに着手。海外公演や CD 収録の他、数多くの本邦初演・世界初演を行う。
- G.F. ヘンデル「メサイア」の異なった 9 種の版を連続的に公演。(91-01)
- 季刊誌「ゲオルク」創刊 (93~03)
- G.F. ヘンデルの権威・故渡部恵一郎氏の監修のもと、ヘンデル作曲の本邦初演のオラトリオをジェスチャー付きで連続公演。(95-01)
- 中野振一郎&コレギウム・ムジクム・テレマンによるドイツ演奏旅行 (99)

ヘンデル「メサイア」10年連続演奏会 (9回まで実施)

1991年	9月 2日	Vol. 1	1742年ダブリン版
1994年	2月 27日	Vol. 1	1743年ロンドン初演版
1995年	6月 25日	Vol. 1	1749年版
1996年	2月 18日	Vol. 1	1750年I版
1997年	6月 18日	Vol. 1	1752年I版
1998年	4月 26日	Vol. 1	1751年版
1999年	6月 27日	Vol. 1	1750年II版
2000年	7月 2日	Vol. 1	1752年II版
2001年	6月 10日	Vol. 1	1753年版

## 2000th

- ヘンデルのオラトリオ公演にて、上方講師・旭堂南左衛門が共演 (00)
- 琵琶湖水質浄化の紙の使用開始。演奏会を通じた環境改善活動に着手 (00)
- 小説「延原武春」(作:中野順哉)が東方出版より出版 (00)
- 御当地の歴史取材した創作談話とのコラボレーション「音楽絵巻」がスタート (02)
- 高田泰治がチェンバロ、フォルテピアノ、ピアノを弾き分ける協奏曲のタバに出演し、ソリストデビュー。(02)
- 中野振一郎率いるコレギウム・ムジクム・テレマンが渡独。「バッハ・フェスティバル in ライプツィヒ 2003」に出演し、C.P.E. バッハ作曲「チェンバロ協奏曲」の復元世界初演を行う。(03)
- 協会創立 45 周年を記念して、延原指揮によるベートーヴェン交響曲全曲及び合唱幻想曲、荘厳ミサ曲連続公演が催される。ベートーヴェンの指示したテンポとクラシカル楽器の使用によるこの公演は高く評価され CD に。(08)
- ハイドン作曲オラトリオ「四季」の公演が大阪文化祭グランプリ受賞 (07)
- 延原、ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。(09)

デンオン制作「J.S. バッハ: チェンバロ協奏曲集」(00)  
 マイスター・ミュージック制作「ラ・フォリア」(02)  
 「バッハ以降のチェンバロ協奏曲集」(02)  
 ライヴノーツ制作「オーボエ協奏曲・バロック名曲集」(03)、  
 「星に願いを」(04)「テレマン作品集② 7つのトリオ・ソナタ」(08)  
 「ベートーヴェン・チクルス」(09-11)

## 2010th

- 延原が大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮するシリーズが始まる。ベートーヴェン交響曲全曲を公演。(10)
- 延原、日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会を指揮。(10)
- 協会代表が延原から中野順哉に。(11)
- コレギウム・ムジクム・テレマン解散 (11)
- 「指揮者・延原で」というコンセプトのもと、関西在住のフリーランスの奏者を集めオーケストラを結成 (orchestra Japan 2011) し、マーラー交響曲第 4 番を演奏。(11)
- U. プンディース、首席客演コンサートマスターに就任。

オクタヴィアレコード制作「ブラームス: 交響曲第 1 番」(11)  
 ライヴノーツ制作「高田泰治チェンバロ・アルバム Vol.1」(11)、  
 「マーラー『亡き児を偲ぶ歌』交響曲第 4 番」

2011年度版 日本テレマン協会 社会的活動報告

発行 日本テレマン協会

〒 530-0002

大阪市北区曾根崎新地2丁目1-17

TEL06-6345-1046

FAX06-6345-1045

tij@cafe-telemann.com

<http://www.cafe-telemann.com/>

